

天文学とプラネタリウム

第76回



今月のお題

天文学を楽しむ文化の育ち方



世田谷区立池之上青少年会館での星空教室の様子と、そこを通じて見えてきた天文学の普及活動の手応えについて紹介します。



www.tenpla.net

高梨直紘 (東京大学)
平松正顕 (台湾 中央研究院)

「口が開いているよ、口が」。望遠鏡で月を覗きながらも、あわてて口をとして照れ笑いする男の子に、周りの人たちからも笑いがおこります。今年で3年目を迎える、世田谷区立池之上青少年会館の夏の星空教室でのひとこまで。今年、まず会館の講堂で宇宙の話聞いた後に、隣接する小学校の協力を得て、その屋上で夕空に浮かぶ月を望遠鏡で覗く、という内容で行われました。講演は小学校2年生以下の低学年向けと、それより上の学年に向けて2回が行われ、それぞれ70~90名の親子の参加がありました。大部分の方が宇宙の話は初めて、望遠鏡を覗くのも初めてといった中にも、昨年に引き続き参加してくれた児童もあり、全体としてたいへん盛り上がった会になったと思います。

天球儀パーパークラフト、星の一生が解説してあるアストロノミカルトレットペーパー、一家に一枚宇宙図…どれも天プラがお手伝いして、あるいは主体となって作ったものですが、教室ではこれらの具材を上手に合わせながら、低学年の児童から高学年の児童、さらには付き添いで参加している保護者の皆さんまで、その

場集まっている人たち全員が少しでも天文学に興味を持つような組み立てを心がけるようにしています。その組み立て方も、私たちが三鷹市立第四小学校で毎月開催している天文部活動“アストロクラブ”での経験がフルに活かされています。そのようなことを考えると、世田谷区立青少年会館での星空教室は、天プラのこれまでの経験の結晶だとも言えるでしょう。

一方で、このような活動を支えてくれる人たちの輪が広がりつつあることも、嬉しいことです。3年前に初めて世田谷区立池之上青少年会館で星空教室を開催した時は、講演を1回しただけで終わりでした。2年目には、低学年の児童と高学年の児童を分けて2回の講演をすることができました。3年目、つまり今回の星空教室では、講演に加え天体観望会を行うことができました。このようにどんどんとイベントが拡大しているのは、ひとえに世田谷区立池之上青少年会館のスタッフの皆さんと、そこに協力して下さる地域の皆さんの力によるものです。児童たちに配布するミニ冊子を作っていたいたり、小学校と交渉して屋上を使わせてもらったりとさまざまな努力をして下さっており、会を

お月見に合わせた天文イベントを計画中!



小学校の屋上で天体観望会を行っている様子。夕方の月をみんなで眺めました。

より充実したものにするためには欠かせない存在となっています。

星空教室という場を支えるために地域の力が結集され、その場を通じて児童や保護者の皆さんに天文学について考えたり楽しんだりする機会を提供できることは、天プラの活動を進めてきた私たちにとって素晴らしいことです。今回の星空教室はひとつの例で、同じような構図が他にもいくつかできつつあるように感じています。まだ芽が生えてきたばかりですが、少しずつ成長しながら立派な木になって、多くの果実を実らせる。そんな日が来ることを願って、これからも活動していきたいと思います。